

## 競進社模範蚕室の沿革概要

- 明治5年(1872) 木村九蔵は飼育法「一派温暖育」を発表する。
- 明治10年(1877) 新宿村(現神川町)で養蚕改良競進組を結成する。
- 明治14年(1881) 九蔵は新品種「白玉新撰」を世に出す。
- 明治17年(1884) 組織を拡大して競進組を競進社に改め、児玉町に事務所と児玉養蚕伝習所を開設する。
- 明治27年(1894) 児玉養蚕伝習所内に模範蚕室を新築。
- 明治30年(1897) 伝習所内に競進社蚕業講究所を開設し、学科と実技教育を織り混せた学校とする。
- 明治31年(1898) 競進社社長木村九蔵没する。54歳。
- 明治32年(1899) 競進社蚕業講究所は競進社蚕業学校となる。
- 大正8年(1919) 甲種相当の蚕業学校となる。
- 大正14年(1925) 競進社実業学校と改称する。
- 昭和12年(1937) 児玉農学校と改称する。
- 昭和23年(1948) 埼玉県児玉農高等学校となる。
- 昭和45年(1970) 蚕室が埼玉県指定文化財(建造物)となる。
- 昭和55年(1980) 10月、蚕室の解体修理に着手。
- 昭和56年(1981) 3月、解体修理が完了する。
- 昭和57年(1982) 埼玉県より児玉町に蚕室が移管される。
- 平成18年(2006) 1月、市町合併により本庄市競進社模範蚕室となる。



明治時代の競進社

## 競進社模範蚕室案内図

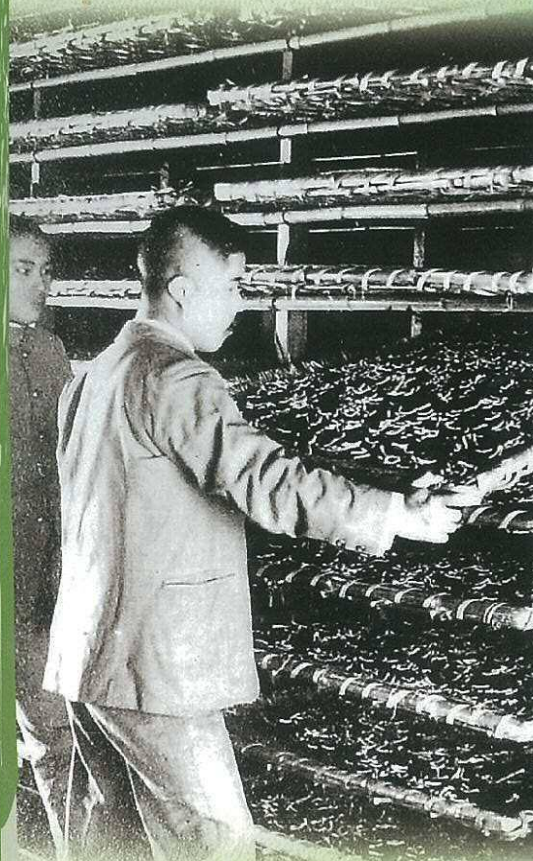


### ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後4時30分
- 休館日 月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)、年末年始
- 入館料 無料
- 問合せ先 0495-25-1186 文化財保護課

埼玉県  
指定文化財

# 競進社模範蚕室



見学のしおり

本庄市教育委員会



## 競進社模範蚕室の概要

名称	本庄市競進社模範蚕室
所在地	本庄市児玉町児玉2514番地27
構造	中二階建切妻棧瓦葺高窓付
面積	153㎡
指定	埼玉県指定文化財 昭和45年3月30日

競進社模範蚕室は、養蚕技術の改良に一生を捧げた木村九蔵が、明治27年(1894)に競進社児玉伝習所地内に建設したもので、本県に数少ない近代化遺産(絹産業遺産)である。

木村九蔵は、炭火の火力で蚕室の湿気を排除し、病蚕を防ぐ「一派温暖育」と称する蚕の温暖飼育法を考案した。この蚕室の構造は、換気に綿密な配慮がなされ、彼の考案した温暖飼育法の効果が十分に発揮できるように設計されている。即ち、戸・障子の開口部を広く取り、床下には吸気口と煉瓦積みの炉を設け、天井は空気が通り抜けるように小間返しとし、高窓はロープで開閉できるようにした。また蚕室の周囲を廊下が一周し、作業効率を向上させ、東西各2か所に入出口を設けている。欄間も中二階及び一階各所に大きく設け採光にも配慮している。

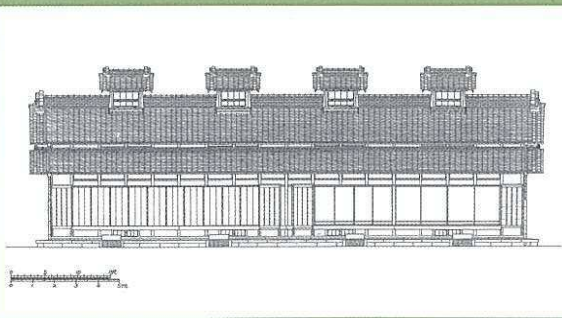
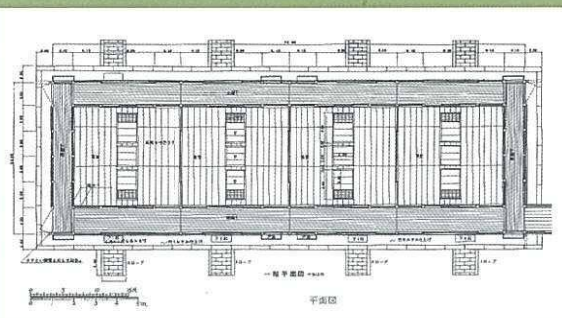
この競進社流の蚕室と飼育法は、全国各地から集まり学んだ卒業生により各地に伝えられ、我が国の養蚕業の発展に大きく貢献した。

なお、競進社社長木村九蔵は、実技教育のみの伝習教育だけでなく、学問的教育の重要性を認識

し、明治30年(1897)2月に競進社蚕業講究所を設立した。この講究所は、明治32年(1899)には競進社蚕業学校となった。その後、幾多の変遷を経て、現在の県立児玉白楊高等学校に至っている。



明治時代の競進社蚕業学校



解体修理時に作製した図面

## 競進社と木村九蔵

木村九蔵は弘化2年(1845)に上野国緑埜郡高山村(現藤岡市)の旧家高山寅三の五男として生まれた(幼名巳之助)。



九蔵は、少年の頃より養蚕に興味を持ち、父の隠居所の二階で蚕を飼い、そこでの経験が後の新飼育法の発見につながっている。元治元年(1864)に児玉郡新宿村の木村弥次右衛門の娘しまと結婚し、慶応3年(1867)に、自立して名を木村九蔵と改めた。

九蔵は養蚕改良に没頭し、火力を用いて保温・防湿することにより蚕病を防止できることを発見して、新しい飼育法として「一派温暖育」と名付けて世に発表した。

明治10年(1877)、九蔵は「一派温暖育」を学ぶ同志を糾合して養蚕改良競進組を結成し、推されて組長となった。さらに「蚕品種の改良が急務である」との持論により、品種改良につとめて、明治14年(1881)には「白玉新撰」を生みだして世に送り出した。

明治17年(1884)には、競進組に参加希望する者が増加し、組織を拡大して養蚕改良競進社と改め、さらに事務所と伝習所を児玉町に開設した。明治27年(1894)には伝習所地内に、一派温暖育飼育法に適した蚕室を設計・建築し、この蚕室は後に模範蚕室と呼ばれることとなった。

明治30年(1897)に九蔵は養蚕教育の重要性を認識し、実技教育にとどまらず学科教育を取り入れた本格的な蚕業学校の設立をめざして、伝習所内に蚕業講究所を開設した。

明治31年(1898)、数々の業績を残し、惜しまれながら九蔵はその生涯をとじた。54歳であった。九蔵の一生はまさに養蚕改良と蚕業教育一筋で、明治期の日本の近代化に大きな足跡を残している。